

目指す学校像	・夢と希望をはぐくみ、生き生きと活動できる学校。 ・誇りある自分づくりのできる学校。 ・伝統と良さ校風を継承し、地域に誇れる学校
重点目標	1 生徒にとって学び続ける喜びを実感できる授業、教師としての力量を高め、きめ細やかな指導の実践 2 生徒とのふれあいを密にし、より深い生徒理解を基底にしながら生徒一人ひとりに対応した指導を実践 3 豊かな教育環境の整備 4 社会に開かれた教育課程の推進

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価
年 度 目 標							実施日令和5年2月17日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<現状> ○生徒は学習に意欲的であり、学校評価の生徒アンケートにおいて「生徒にわかりやすく、学ぶ喜びを味わえる授業がなされている。」に肯定的な回答 <課題> ○学校評価の保護者アンケートにおいては、「教職員の指導力向上に向けた授業の工夫・改善がなされている。」との項目において否定的な回答が22%見られた。 ○教師は探究的な学びを通して、生徒の「課題発見力」や「主体的に学習に取り組む態度」をさらに高めていきたいと考えているが、その方策について研究が必要である。	・生徒が主体的に学習に取り組み、学び続ける喜びを実感できる指導の工夫・改善 ①～ICT 機器を活用した魅力ある授業を目指して～	①スタディサブリを効果的に活用し、国語、社会、数学、理科、グローバル・スタディにおいて、反転授業を試みる。その実施方法や生徒の変容を見取る。 ②各教科において、スタディサブリを活用した授業実践方法の開発と実践を行う。	①学期ごとの生徒向けアンケートの実施とその考察を行い、授業改善を行う。3学期の学校評価等を用いた保護者向けアンケートの実施。その結果を考察し授業改善。教員向けアンケートの実施と考察を行う。 ②10月の指導課訪問において、スタディサブリを用いた「反転授業」の実践を報告し、その方法と効果について指導・助言を得て、単元設定について研究を深めていく。	①「よい授業」アンケートを実施し、教員の授業改善を行った。また、生徒、保護者、教職員による学校評価の結果を考察した。「分かりやすい授業」の項目においては、生徒91%、保護者79%、教職員98%の肯定的な回答を得た。このことから、ほぼ達成していると見とれる。 ②校内授業研究において3教科の反転授業を実施した。成果としては、教科、単元・題材の特性を見極めることが必要であるが、探究的な学びの基礎作りを行うことができた。生徒は積極的にスタディサブリを活用して予習復習を行う様子が見られた。	A	①感染症対策による学校公開の数が少なく、保護者による授業参観の機会が少なかったため、保護者の肯定的な回答が伸びなかったと考える。教科の授業への関心の高さも考え、公開授業を設定したい。また今後はさらなる、指導と評価の一体化について研究を深めていくことが課題である。 ②取組の結果、反転授業に適した教科、単元・題材があることが表出した。また、動画視聴の時間が増加するため、教科間での学習の調整が必要であった。今後は、効果を確認しつつ、実技教科での活用についても研究を深めていくことが課題である。
		・生徒が主体的に学習に取り組み、学び続ける喜びを実感できる指導の工夫・改善 ②～原山中だからこそ学べるSTEAMS TIMEへの創出	①2学期からの本格的なSTEAMS TIME 実施に向け、生徒の発達に応じた教材研究と題材設定の実施。 ②実施を通して、次年度以降よりよい探究的な学びになるよう題材の工夫・改善を行う。	①学校自己評価アンケートにおいて「学ぶ喜びを味わえる授業がなされている」と回答する教職員の割合が80%以上となったか。 ②STEAMS TIME 実施後アンケートにおいて、「学び続ける喜びを実感できた」と回答する生徒の割合が80%以上となったか。	①指導主事による研修を通して、STEAMS TIME と各教科の関連性について整理し、各教科との関連付けを意識して授業実践を行った。学校評価の教職員の回答において98%の肯定的な回答が見られた。 ②生徒アンケートにおいて「学び続ける喜びを実感できた」と回答する生徒の割合が83%（不登校生徒を含めると78%）であった。探究的な学びや教科での学習内容を生かした活動を実施していた。	B	①年間指導計画作成の際に、STEAMS TIME と各教科との関連付けや時期の設定について研究を深め、それを年間指導計画へ反映させていく必要がある。 ②第1学年を中心に、3年間を見通した系統的な学習を実施することができた。この取組を軸に、本校ならではの探究的な学習を研究し、実施していくことが課題である。
2	<現状> ○校舎内のあらゆる建具が木造の作り付けであり、現在の規格に合わないものが多い。営繕で使いやすく工夫している。 ○保護者によるさわやか相談室やスクールカウンセラーへの相談件数が多い。課題を抱えている生徒が各学級複数名見られ、学年で対応している。 <課題> ○昨年度、西側トイレの改修工事を実施したが、東側トイレを中心とした上下水道設備の老朽化が顕著である。 ○放送設備の老朽化が著しく、動画の全校配信の際に、聞き取りづらい場面が見られる。 ○支援を要する生徒への、迅速かつ適切な手立てを講じることが必要である。	・生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるよう計画的な校内整備の実施	①ICTを活用した授業が行いやすい環境の整備。 ②計画的に校内整備を進め、危険箇所の早期発見と、修繕の実施。	①学校評価に係る生徒アンケートに「生き生きとした活動のある教育が感じられる」と回答する生徒の割合が94%以上となったか。 ②学校評価に係る生徒アンケートに「安全やきれいな環境づくりに努め、学習しやすい環境が保たれている」と回答する生徒の割合が95%以上となったか。	①学校評価の結果肯定的な回答が93%であった。様々な教科、指導の場面でICTを活用した取り組みが見られているが、引き続き効果的な活用になるよう研究が必要である。 ②学校評価の肯定的な回答が94%であった。計画的に校内整備を行い、危険箇所の早期発見や修繕を実施したが、生徒が気付くことが少なかったようである。	A	①生徒が感じる「生き生きとした活動」について様々な捉え方ができる。引き続き生徒の活動場面を中心に校内整備を続けていく。 ②教職員の学校評価の否定的な回答が10%あったことから、計画的に備品の整理に努めていく。特に、リモートでの動画配信が増えたことがあるので、放送機器など音声面の整備が喫緊の課題である。
		・生徒の内面をとらえる教育相談活動・特別支援体制の充実と連携体制	①心と生活のアンケートの積極的活用。 ②教育相談の手法と特別支援の手法を組み合わせた、個別支援の充実。	①学校評価に係る生徒・保護者アンケートに「いじめに対して、防止・早期発見・措置が組織的・具体的に行われている」と回答する生徒の割合が85%以上となったか。 ②学校評価の生徒アンケート「生徒との触れ合いを大切にし、一人ひとりの生徒理解を基盤にした指導がされている」と回答する生徒の割合を92%以上となったか。	①生徒・保護者アンケートとも84%であった。教師は心と生活のアンケートを活用し、積極的に二者面談を実施した。 ②生徒アンケートの結果90%であった。面談だけではなく、放課後など生徒との関わりを積極的に取ろうとする教員が見られた。	B	①教職員が98%であったことから、生徒・保護者の感覚と教職員の感覚との間に乖離があることが読み取れる。より細やかで多面的・多角的に生徒理解を進めていくことが必要であり、生徒指導部会、教育相談部会での課題解決が求められる。 ②生徒は教師が考えるより触れ合いを求めている可能性があることが読み取れた。また、生徒指導的な関わりだけでなく、教育相談的、特別支援の視点での関わり方など、多様な生徒に対応できるよう研究していく必要がある。
3	<現状> ○本年度、学校運営協議会を開催し、積み上げてきた熟識を基に作成した学校経営方針の承認を得ることができた。 ○地域と協働して行事を運営して行くことを試みることで、学校と地域の関係性を強めていくことを確認した。 <課題> ○家庭、地域への本校の生徒の活動の様子の発信 ○特別に支援を要する生徒や家庭の把握と、外部機関との適切な連携	・学校運営協議会やPTA 運営委員会等、地域と共同した教育活動改善に向けた取組	①小・中一貫教育を視点とした、小・中教員の交流 ②学校公開における意図的な教育活動や授業公開の広報の実施	①学校自己評価アンケートで「小・中の連携を図ることができた」と回答する割合が80%以上となったか。 ②学校自己評価アンケートで「学校は、地域と共に教育活動を進めているか」と回答する割合が80%以上となったか。	①アンケートの実施ができなかった。夏季研修を通して教員の交流をもつことができた。情報共有を密にとることによって、学習活動の連携を図る教科も見られた。 ②教職員の回答は93%となり、地域と共に教育活動を進めていると認識している。特に、学校運営協議会との協力体制を築くことができた1年であった	B	①小学校派遣の教諭から、児童の情報を聞くことができたことは大きな成果である。教科において連携を図る教科もあり、今後はその教科数を増やしていきたい。 ②学校公開では多くの保護者の来校があった。関心の高さに応えるためにも、引き続き工夫した情報発信に取り組んでいく。
		・地域の方が来校する機会を増やす、学校運営協議会を軸にした地域との協働した行事の計画・立案・実施	①七夕かざりの実施・クリスマスイルミネーション点灯式の実施 ②民生委員・主任児童委員連絡協議会の実施やその他関係機関の積極的な活用。	①学校自己評価アンケートで「地域に開かれた学校運営を実施することができた」と回答する割合が80%以上となったか。 ②学校自己評価アンケートで「積極的かつ効果的に外部機関を活用することができた」と回答する割合が80%以上となったか。	①保護者は85%が地域に開かれた学校であるとの認識をもっている。地域と協働した行事の実施が大きい。 ②アンケートの実施ができなかった。生徒対応において、積極的に民生委員、児童相談所、教育相談室、特別支援教育室等と連携を図り、積極的な活用を行った。アンケートは実施できなかった。	A	①引き続き行事を実施していくとともに、学習活動の成果が表れるような活動や、生徒の自治的な活動になるよう見通しをもって取り組ませていく。 ②引き続き積極的に外部機関を活用し、生徒・家庭への支援を行っていく。また、地域からの情報を積極的に集めていく。
4	<現状> ○エヴァンジェリストを中心に自主的にICTの研修を重ねてきている。授業、学校行事等での効果的な活用が見られる。 ○ベテラン教員のもつ指導技術を積極的に学び取ろうとする若手教員が見られる。 <課題> ○各教科において探究的な学びになるような単元、題材の工夫が必要である。 ○保護者、地域からの要求の精査が必要である。	・生徒が「通ってよかった原山中」と思える学校づくりに積極的に教師が参画し、「勤務してよかった原山中」と思える学校運営の実施	①一年間を通して、教職員としての資質・能力の向上をねらった研修の実施。 ②一人ひとりの校務分掌を整理し、教職員が能動的に校務に取り組ませる。 ③各教科での研究を深め、探究的な学びの視点で年間指導計画を整理する。	①全ての教職員が研修へ取組、結果として80%以上の教員が自身の資質・能力の向上を実感することができたか。 ②全ての教職員が、自らの目標に向けて業務改善に取り組み、結果として80%以上の教員が目標達成を実感することができたか。 ③令和4年度末に令和5年度の年間指導計画が作成でき、活用できる状態になっているか。	①校内研修や自主研修を実施した。学校評価においては100%の職員が指導力向上に向けた授業の工夫・改善がなされていると感じている。 ②全ての教職員が、各分掌において自らの目標に向けて業務改善に取り組み、人事評価面談から、96%の職員が目標を達成したと自己評価していた。現在、次年度に向けた年間指導計画の作成を行っている最中である。	A	①自主研修の充実があった。しかしながら、個の力に頼る場面が多かった。本校の実態に即した研修を効果的に実施し組織の力を向上させるためにも、計画的な研修計画が必要である。 ②分掌の業務を整理し、棲み分けが引き続き必要である。自動化できることや注力しなければならない業務を明らかにし、引き続き業務改善に努めていく必要がある。 教科等の学習内容について有機的に関連付けを行い、履修主義から習得主義の教育課程にしていく必要がある。また授業における探究のサイクルについて、各教科等で研究する必要がある

・参観を通じて、教師の授業における工夫・改善が見られた。

・学校公開が少ないことが、保護者のアンケート結果から読み取れる。行事を工夫して実施してもらいたい。

・本校生徒はよく挨拶をしている。

・「あいさつ」「返事」「後始末」の凡事徹底が大切である。引き続き社会人・よき家庭人としての基礎・基本の育成に取り組んでもらいたい。

・新設校との施設の格差がひどい。改修・充実を図ってもらいたい。

・大変な時代の教育を担ってもらってありがたい。

・課題を明らかにして指導に当たってもらいたい。

・教師と生徒のコミュニケーション、人と人との関り、意見を交わす関係性を醸成してもらいたい。

・校長によって学校は変わる。今年のように研修を進めてもらいたい。